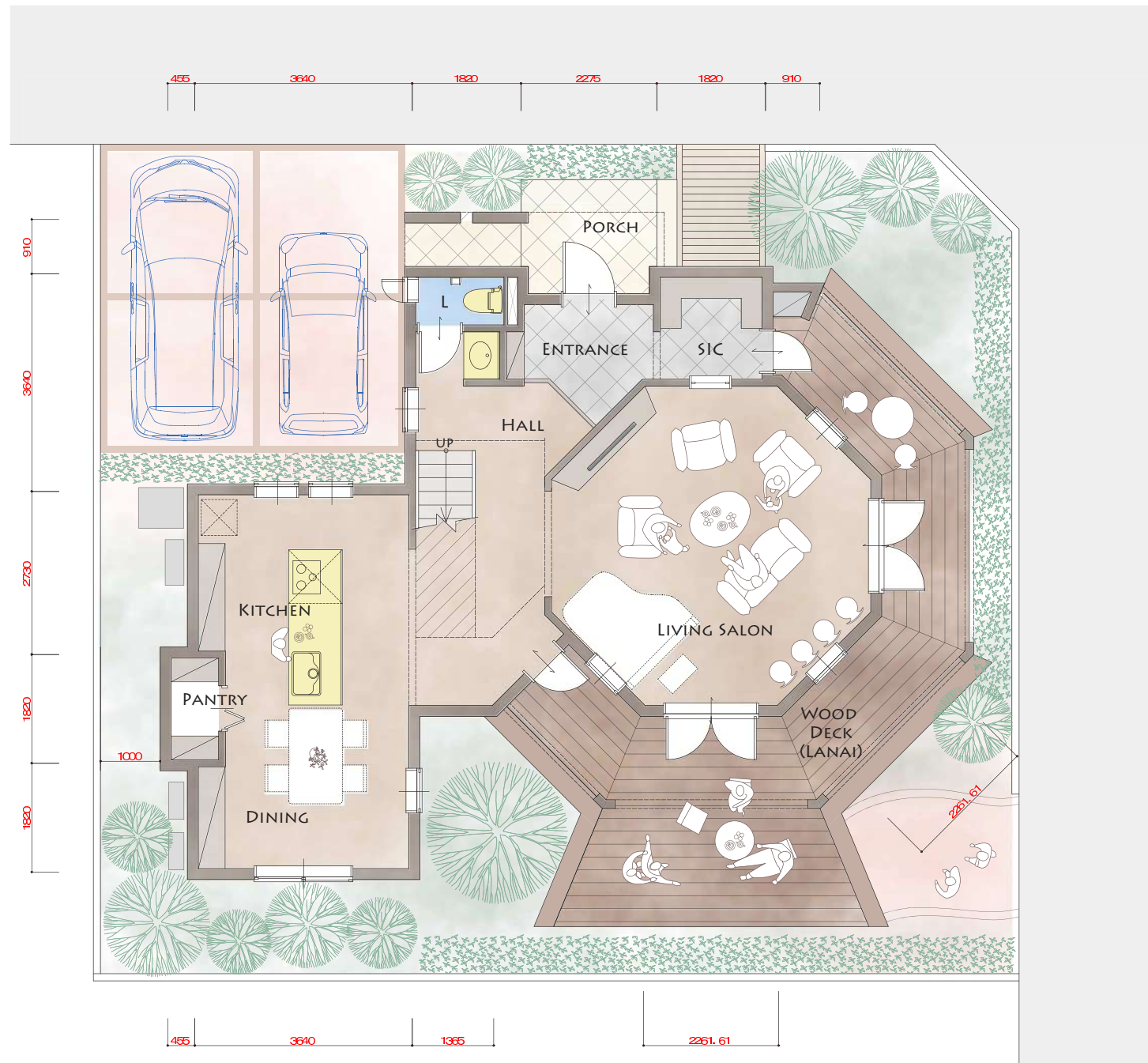




PERSPECTIVE

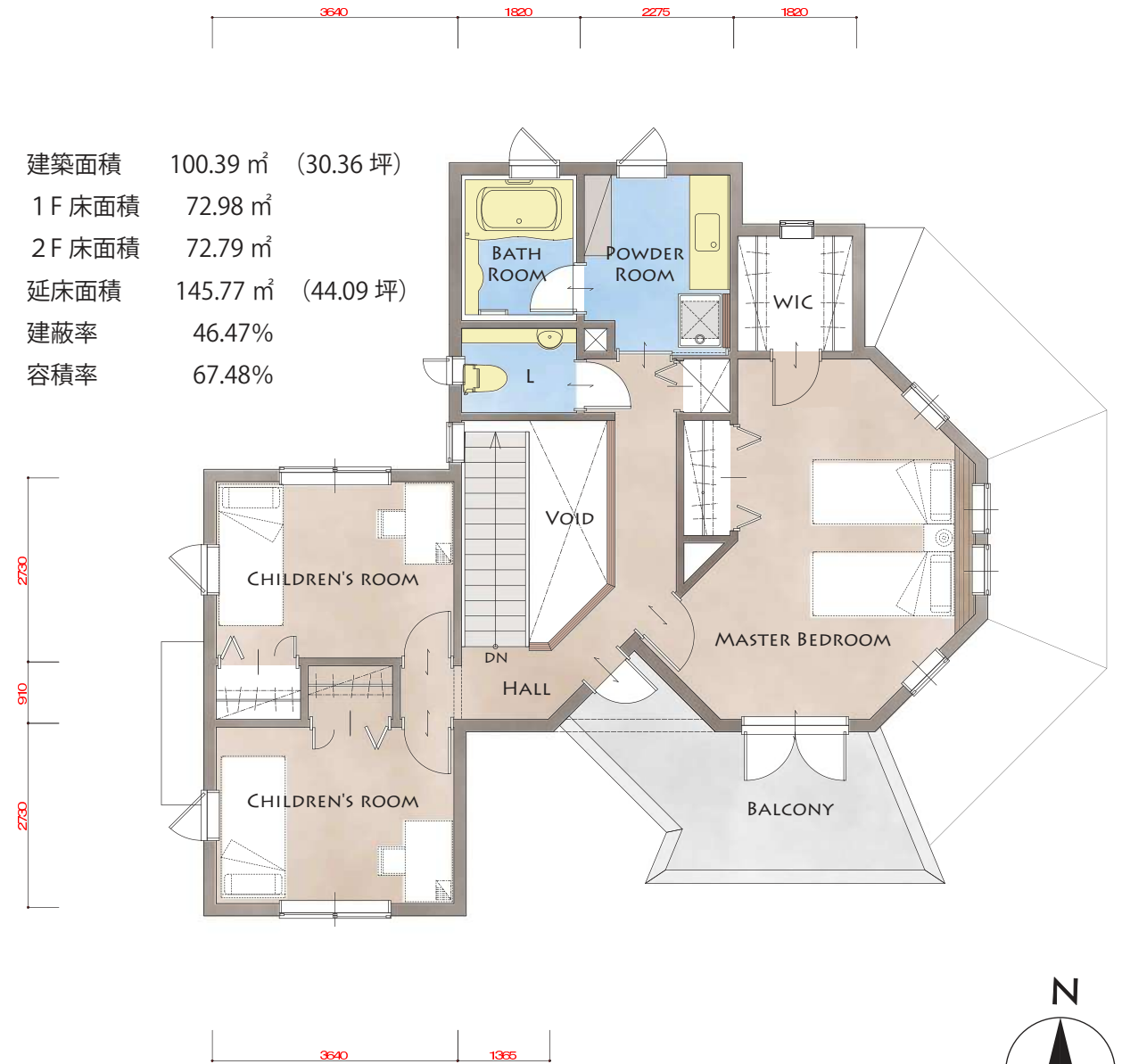
SALON DU OCTAGON

— 循環する廻廊 —



SITE PLAN & FIRST FLOOR PLAN

| | | |
|--------|-----------------------|-----------|
| 建築面積 | 100.39 m ² | (30.36 坪) |
| 1F 床面積 | 72.98 m ² | |
| 2F 床面積 | 72.79 m ² | |
| 延床面積 | 145.77 m ² | (44.09 坪) |
| 建蔽率 | 46.47% | |
| 容積率 | 67.48% | |



SECOND FLOOR PLAN



S = 1/100

建築の意匠性の追求により、昨今話題を呼ぶ建物の多くは洗練されたシャープな外観が目立つ。すっきりとしたフォルムを実現するために軒はしばしば邪魔者扱いを受け、巷では「軒ゼロ住宅」なるものも謳われている。デザイン的な側面以外にも、国土の小さい我が国において敷地が狭小であることによる形態的な問題の解決策として、軒を極力出さない計画とすることは珍しくない。

軒を大きく張り出すことは、日除けや雨仕舞という役割から考えれば過度な計画と言え、明らかにそれ以上の意図や狙いを持ったものであると分かる。それはやはり快適で豊かな“滞在空間”の創出であるとする。屋内と屋外を緩やかにつなげるその空間は住み手に生活活動の場として第三の選択肢を与え、暮らし方に多様性を与えてくれる。

角地を意識し、北～南東面までをファサードとして捉えた八角形のリビングをラナイが取り囲み、半屋外空間を形成している。ラナイはリビングの延長であり、庭の延長でもあると捉え、壁は板貼り、床は木製デッキを設け心地落ち着く癒しの場とした。リビングでは時にピアノの演奏会を催し、聴衆は南東から庭を介してラナイ、リビングにアプローチする。主寝室はリビング上部に設け、外接面を多く確保し日当たりが良い室として計画した。



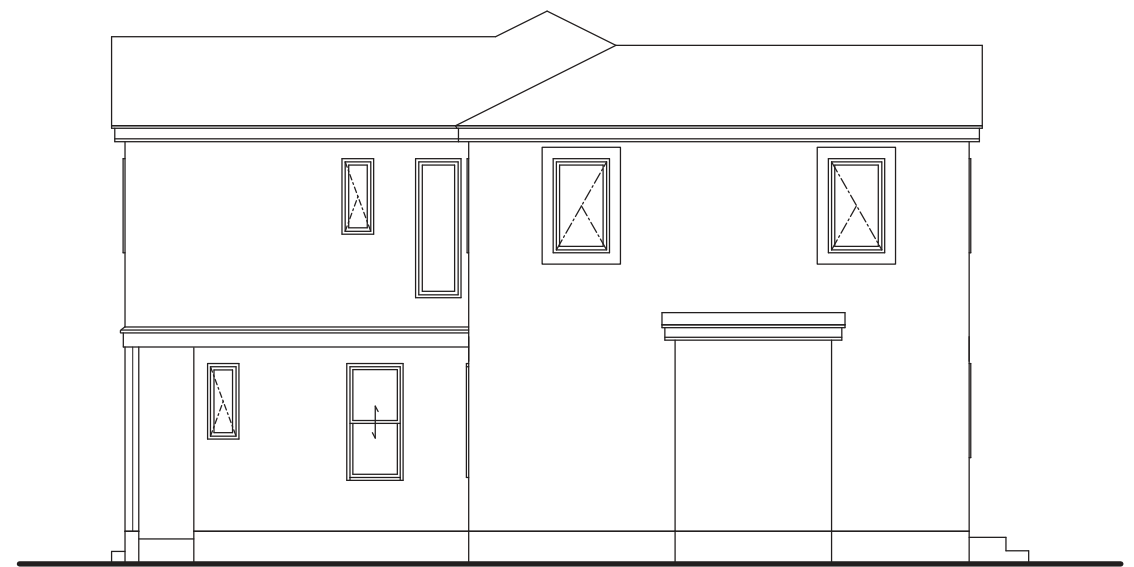
SOUTH ELEVATION



EAST ELEVATION



NORTH ELEVATION



WEST ELEVATION